

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-4-20-102

2016年6月号《No.12》

TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

今月の聖句

イエスは彼らに言われた。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じるものは決してかわくことがない」

ヨハネにとる福音書6章35節

主題

国際会長	Wichian Boonmpajorn	「信念のあるミッション」
アジア地区会長	Edward K.W.Ong	「愛をもって奉仕をしよう」
東日本区理事	渡邊 隆	「原点に立って、未来へステップ」
あずさ部長	標 克明	「ワイズメンとして一歩前」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指し」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。

5月の出席率 92% 在籍者 14名 出席者 13名 メネット1名 ビジター1名

にこにこ 9400円 (6月)

本年度の総括例会に初参加して

大輪 匡史

まず宮内さんから、前年度の活動について、新入生三名に感想のお時間を頂きました。大先輩の板村さんから お話しがはじまり、流石社会人の大先輩は、的確なワイズに関わるお話しをしていただき、内容は、麻生さんや大輪の感想と、ほとんど同じ感想でした。

ワイズの組織や歴史を理解していないのに、生意気にお話してすいませんが、私個人的に考

える事は、中高学生時代に東京 YMCA 少年部で学んだ、キリスト教から学び、皆さんと我々が幸せに感じる理想社会の構築の為のお手伝いをする YMCA と理想は変わっていませんが、自分の感性が老いたのか、今のワイズには！その輝きを感じられず、残念でした。

しかし、武蔵野多摩ワイズの皆様とお話して、呑みながら時間を重ねていく間に、瞳の奥に秘めてる素敵な心を感じ獲ずにはられませんでした。私は皆さんの気持ちに支えられ感謝して、これからもワイズのメンバーとして、頑張りたいと思います。沢山の人が幸せを感じる理想に向かってワイズと共に
宮内様、武蔵野多摩を守る為に 頑張りありがとうございました。

2016年6月例会の様子

日 時 6月8日19時 会 場 西東京センター
司 会 渡邊ワイズ 聖書・祈祷 山口ワイズ 受付 松田ワイズ
ビジター 江夏 一彰ワイズ (長野クラブ)

6月例会はディスカッション「今期の総括と次期のよりよい活動に向かって」

宮内会長から今日のビジター江夏ワイズの紹介と東日本区大会の報告、次々期理事に決まったご協力を、の言葉があった。

評価と活性化のディスカッション 我々は三名の仲間を得ましたまず三人のフレッシュな目から見た入会前後の感想、とアイデアから・・・

板村ワイズ YもYsもわからないまま参加して4か月してとにかく時間もお金も忙しい、親睦や地域社会、YMCAに協力、目的に対して費用対効果はどうなんだろうか。時間と労力はどれだけかけてもよいが、組織運営や親睦に対して自分の時間とお金がどれだけ効果を上げているのか・・・
若者たちは時間も金もない、クラブメンバーは高齢者がほとんどで新陳代謝がなければ・・・
自分自身何もやっていないわりに忙しい、費用対効果をもう一度考えたいと思っています。

大輪ワイズ 私にとってまだYsが漠然としております、私は小学校からのY育ちなのですが、Yとの関連性と目的がはっきりしないのです。

Yそのものの管理とかシステムがちゃんとできて、経営管理がはっきりして経営状態がうまく運営されていれば自ずと存在感もはっきりしてYsの関わりかたもはっきりして何をすればよいのかがクリアになるのではないかと思います。

寄付をしてもお金が一体どこ行ったのかははっきりしないのが不思議なのとYsのYをとうしての社会への関わり方について、もう少し考えるべきではないかということ。

社会奉仕活動へYとYsの関わり方、社会奉仕をすることで我々が精神的にどういう満たされる充実を得、次の奉仕に向かうよりどころつかむ大切さを学ばなければならないと思います。

そしてそれが若い人につながり連鎖してゆくことができるか、現実的に我々は関わっていけ・・・。
本来は富のある人もない人も結局は社会のために奉仕していくはずなのに、ある程度お金があって時間あって余裕のある人がボランティアをやったりいろいろな関わり合いを持つことが特権階級の趣味のようにしか見られない、お金がかかるYMCAは恵まれた子弟の恵まれた指導を受けられる、それはその目的から離れているのではないか。そこにお金のない若者たちが集まってきて何か活動ができるのか、私はYMCA少年部から高校時代までずっと思いつつづけ遂に離れてしまいました。

今回Ysに参加しえYMCAの目的からもう一度考え直すべきだと思います。そこでYsがYMCAにどうかかわっていけばいいのか、その次にワイズメンとして組織システムといった箱モノではなく自分たち中身が生かされている納得した生き方ができるのではないかと思います。

宮内さんたちが必死で守ってくださっている間に我々はやらなければならないと思います。「その通り」

(と板村ワイズの声)

麻生ワイズ 参加して短時間に感じたことですが役員の忙しさ、組織に振り回されクラブとして現実にならなければならないことを考えたり、したりすることまで手が回らない感じです。もったいないなあと思います。

若い人の参加はお金と時間の問題で絶対とっていいほど無理です。

もうちょっと簡素化ができればその中間層つまり社会に責任を感じたりもったりしている層からこの集まりに引き込みができるのではないのでしょうか。《クラブにとって本物の3本の矢を見た、矢は1本でも2本でもダメ3本必要》

石丸ワイズ クラブメンバーは気持ちのいい人ばかりです。外を回って帰ってくると、いつもこのクラブで良かったと思います。しかし外から見ると生産性と面白そうなことをしているといった魅力に乏しいのです。仕事と時間が重なったとき仕事をとってしまうジレンマに陥ってしまいます。

Ysは口を出さずに金を出せばよいと聞いたとき何をしてきたのかわからなくなりました。

このクラブの売りを考えることがクラブの生き残りに直結すると思います。

宮内会長の入会以来の思いは、全く三本の矢と同じだったことを聞きながら思ったこと(宮内会長と石丸ワイズは同期で同じ悩みを抱えながらアジアや区の役員の役を果たしてきた。それともう一つ我々のクラブで卓話して下さった二人、ブータンにJICA調整員としてYMCA出身者ともうお1人は協力隊としてYsが同じ地で共に2年間過ごしたがYとYsで何もおこさなかった。

それと同じ問題が今回の総括で話し合われている底に重く横たわっている、何とか解決しない限り我々のクラブも老朽化し続ける。)

話し合いはまだまだ続いたが、この問題は簡単に解決できる問題ではない、これからはひんぱんにできれば2か月に1回くらい担当主事も加わって話し合おうとゆうことになった。

2年間を振り返って

宮内 友弥

2014年度に2度目となるクラブ会長をお引き受けして2年、短いような長いような2年でした。前回2006年度は会長としての自覚も薄い中で先輩諸氏に支えられ、その年の7月に東京武蔵野クラブと合併、9月には合併特別例会を開催し東京武蔵野多摩クラブとして新たなスタートを切った記念すべき年でした。あれから10年、今回は2度目ということで1年目の昨年度は少しは手際よくなったかと思いますが、2年目の本年度は自分自身に対する緊張感が欠け、ややもするとマンネリ化していたのではと反省しています。会長は、出来るだけ任期1年で次にバトンタッチするのが望ましいと思います。マンネリに陥らないためにも。

振り返ってみますと、昨年度はモンゴルの新クラブをスポンサー、本年度は東京多摩みなみクラブ設立のサポートクラブとして協力しましたが、肝心のクラブの会員増が昨年度は成果を見ることが出来ませんでした。幸いにも今年度3名の新しい仲間を与えられ、2月例会にて板村哲也氏、大輪匡史氏、麻生由美子氏3名の入会式を行うことができ、またクラブに新風を吹き込んでいただけたことは最高の喜びでした。

来年度は山口会長の下、一人一人が主役となりアクションを起こし全員が一致団結して新しいプロジェクトへの挑戦の年にしたいと今からワクワクしています。

選挙権を得た若者向けのヒントを発見!

- 情報を得たとき
- 1、結論を即断しない、裏に意図があるかもしれない。
 - 2、事実と、意見や感想を区別して考える。
 - 3、ほかの見方がないか探す。

4、隠れているものはないか、注目されている情報だけでなくその周りもみる。

新聞・テレビを見るときも「鵜呑みは腹壊しのもと」の言い伝えを思い出しました。

<西東京 YMCA 便り>

〈担当主事の独り言〉

今月は、西東京センターの新しい仲間となった「きしめん」を紹介します。この秋、臨床心理士の試験を受けるためにYMCAだけでなく奮闘の日々です。 出沼 一弥

はじめまして。この度、新しく西東京センターの一員となりました樋上巧洋（ひがみこうよう）と申します。放課後等デイサービスのスタッフとなります。私は、昨年度まで早稲田大学の大学院で、臨床心理学を勉強し、そこで、発達障がいの子どもの特徴や関わり方について学んでいました。YMCAが放課後等デイサービスを始めるにあたり、そのスタッフとして働くことができ非常にうれしく思っております。

まだまだ、YMCAのことを勉強している最中です。また、放課後等デイサービスも始まったばかりで試行錯誤であります。YMCAを深く愛し、情熱を持っている武蔵野多摩クラブの皆様には、是非これから始まるYMCAの新しい活動をどうか温かく見守っていただけますと幸いです。何卒よろしくお申し上げます。

〈放課後等デイサービス〉

放課後等デイサービスとは、児童福祉法に基づく新しい支援の形です。具体的には、発達障がいやその周辺に課題を抱える子どもたちを放課後（授業後）に預かり、様々な支援や体験の場を提供するサービスです。東京YMCA西東京センターでは、2016年6月より、放課後等デイサービスの認可があり、『東京YMCA さくら国立』（略称：さくら国立）という名称で開設することになりました。現在はさくら国立の告知を周辺の学校や医療機関にしております。

さくら国立では、主にソーシャルスキルトレーニング（Social Skill Training：SST）を行います。ソーシャルスキルとは、人が社会的な場面で人と交流する際に大事とされるマナーや知識のことです。西東京センターでは、20年前から、発達障がいの子どものためにソーシャルスキルトレーニングを行ってきました。そこでの実践を通して得たノウハウを、さくら国立でも継承していきたいと考えています。また、休日や長期休みには、外に出かけて様々な体験ができるような野外教育活動も計画しています。参加する子どもたちが、豊かな生活を送ってもらえることを願って、いろいろな体験の場を提供していきたいと考えています。

7月のハッピーバースデー 石丸 由里ワイズ（7・1）笠利 真理子メネット（7・11）

清水 冴子メネット（7・27）

7月例会当番 司会 板村ワイズ 聖書・祈祷 伊佐ワイズ 受付 麻生・野尻ワイズ

① 7月13日(水)第一例会 スピーカー「藤田智氏」"野菜作りは街づくり"のテーマでお話しいただきます。藤田さんは新しくできた東京多摩みなみクラブのチャーターメンバーです。また、今もNHKで趣味の園芸に出演中で活躍されている方です。恵泉大学で教鞭も取られており、こうご期待。あと浅羽新あずさ部長の公式訪問もあります。

② 次に、7月16日(土)は武蔵野多摩が担当のあずさ部評議会です。会場は中野サンプラザ、10時半受付開始 11時開始 12時半までで行います。午後に同じ会場で西クラブ40周年があり、評議会は純粋に評議会のみとすること、経費を安くするために飲み物も出さないことで部長とも話をしております。ただ、受付、会場、誘導など我々の業務は多くありますので、原則全員参加でお願いしたいと思っています。